

# SENDAI Lifestyle



特集

## 外国につながる 子どもたち



インタビュー 外国につながる子どもたちの可能性を後押しする  
コーディネーター座談会

多文化SENDAI 宮城華僑華人女性協議会

外国につながる子どもたち 仙台市立国見小学校 (その1)

コラム 仙台ではたらく/子育て in せんだい/日本語学校の窓から

CIR通信 外国人住民向けお役立ち動画 「粗大ごみの捨て方」

**SenTIA**

Sendai Tourism, Convention and International Association

(公財) 仙台観光国際協会 (SenTIA) 国際化事業部は、言葉や習慣の異なる外国人住民や外国にルーツを持つ人々と暮らす「多文化共生」のまちづくりのため、さまざまな事業を行っています。

WEBサイト



Twitter



Facebook





特集

# 外国につながる子どもたち

日本中に多くの外国人が暮らす現在、仙台でも約1万3千人の外国人住民が生活しています。そのような中、親の都合で来日する外国籍の子どもたちや、外国にルーツを持つ日本国籍の子どもたちが増えています。今回は、多様化する子どもの課題について考えます。

## 日本語指導が必要な児童生徒の増加

全国の公立学校における日本語指導が必要な外国人児童生徒数は10年間で1.4倍、日本語指導が必要な日本国籍児童生徒数は10年間で2.1倍に増加しています。(図1) この数字からわかるように、外国籍の子どもたちだけでなく、日本国籍でも親が外国籍の場合など、外国にルーツを持つ子どもたちの支援は大きな課題となっています。

国内の日本語学習者数の大幅な増加とともに、外国人の子どもへの教育に関するさまざまな問題も指摘されています。政府が2019年より打ち出した外国人材の積極的な受入政策により、将来的には外国人の子どもを含めた更なる日本語学習者数の増加が見込まれています(令和2年3月文部科学省「外国人児童生徒等教育の現状と課題」)。

## 「外国につながる子ども」を取り巻く問題

国籍に関わらず外国に言語・文化的背景を持つ「外国

につながる子ども」は、日常生活や学校での学習に困難を抱えることがあります。日本語力が不十分な状態で入学してゆく、異なる文化や習慣の中で育ってきたため学校生活に馴染むのに時間がかかる、日常会話は問題なくても学習言語が身につけていないため、教科学習についていけない。親の日本語力が低く家庭での学習をサポートできない、などです。

一方で、子どもが学校生活の中で日本語が上達し、日本の習慣に適應していく中、親は長く日本に住んでも日本の習慣への理解や日本語力が進歩せず、家庭内での親子のコミュニケーションに支障をきたすケースも見受けられます。外国につながる子どもたちは、日本語の習得だけでなく、継承語(親の母語)の理解や、家庭内での異なる文化習慣など、複雑な状況の中におかれています。

## SENTIAへの子ども相談

SENTIAでは、子ども支援事業を行っており、外国につながる子どもと、その保

図1 公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数の推移 (文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成30年度)」)

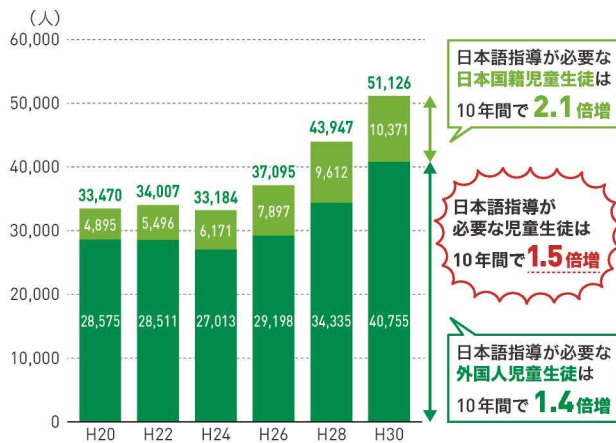


表1 外国につながる子どもサポートせんだい 令和2年度相談対応実績

年齢層	件数
小学生	24
中学生	9
高校生	4
未就学児	4
その他*	5
合計	46

\*特定の年齢層に限らない相談

表2 コミュニティ通訳サポーター 令和2年度派遣実績

言語	件数
中国語	11
英語	6
ネパール語	4
ベトナム語	3
ヒンディー語	1
合計	25

\*子どもに関する通訳派遣件数のみ

## SenTIA 外国につながる子どもサポートせんだい相談デスク



学校の先生

- ✓ 日本語がわからない、外国出身の子どもが使える教材はないか？
- ✓ 外国人保護者を、どのようにサポートしたらよいだろうか？

- ✓ 学校の行事に行ったり、先生と面談する時に、通訳をお願いしたい。
- ✓ 学校以外でも、日本語や勉強を教えてくれるところを紹介してほしい。



外国人保護者

相談デスクでは、サポート情報の提供や経験豊富なコーディネーターの派遣、ボランティア通訳の紹介、教材の貸し出し、ガイドブックの提供など様々なサポートを無料で行っています。詳しくはお問合せください。



SenTIA 外国につながる子どもサポートせんだい相談デスク

護者、子どもたちを受入れる学校、現場の先生たちを、入学・編入手続きから、学校での適応、進学相談や受験の対応まで、様々な場面でサポートしています。

相談デスクに寄せられる相談は増加傾向にあり(表1)、内容も多様化・複雑化しています。日本語が話せない、理解できないという言葉の問題に加え、子どもの発達上の問題についての専門機関への相談や、家庭内トラブルによる児童相談所とのやり取りなどが必要なケースが増えてきています。SenTIAでは、

### 進学のための支援

家庭の事情で来日する子どもの中には、日本語力が不十分なまま高校入試を迎えたり、学齢期を過ぎてから来日して高校進学を目指すケースがあるほか、保護者が日本の高校進学について十分な知識・理解

ボランティア通訳者を派遣したり(表2)、外国につながる子どもとその保護者、関係機関との円滑な意思疎通を図るため、コーディネーターや職員による助言などを行っています。

### 日本人と外国人が共に生きる社会に向けて

政府が策定した「外国人材

解を持たないなどの課題もあります。SenTIAでは、日本語や日本の高校入試のシステムがわからない日本語を母語としない子どもと親のために、日本での高校進学について多言語で説明し、相談することができ「進路ガイダンス」を市民団体と開催しています。また学校での進路相談や、高校入学後のガイダンスに通訳者を派遣しています。

の受入れ・共生のための総合的対応策」では、子どもの教育についても重点が置かれています。文部科学省指針等では、日本語指導が必要な児童生徒に対するきめ細やかな支援や外国人の子どもの就学機会の確保、障害のある外国人の子ども支援や進学・キャリア支援など、これまで支援が十分に行き届いていなかった分野についても言及されています。

たちが、自分たちと同じ境遇にある後輩たちをサポートする側になっています。外国出身でさまざまな困難を抱えた子どもたちですが、早い段階でまわりのサポートと教育の場に恵まれば、楽しい学校生活を送り、進学して、社会で活躍できる可能性を持っています。外国につながる子どもたちのサポートは、異なる言葉や文化習慣を持つ人々と共に生きる社会の実現のため、重要な取り組みの一つとなっています。

## コーディネーター座談会

外国につながる子どもたちの可能性を後押しする

外国につながる子どもたちにとって、学校生活では、日本語という言葉の壁の他に、文化・習慣の壁など多くの課題があります。それは、外国人保護者にとっても同様です。今回は、当協会でも外国につながる子どものサポートをお願いしているコーディネーターの皆さんに話を聞きました。

「子どもたちのサポートで感じたこと、子どもたちや保護者の様子を教えてくださいませんか。」

**田村** 私たちの当たり前がそうじゃないということが往々にしてありますね。例えば、学校の中での着替えは、男女は分けていても、海外から来た子どもは人の前で着替える習慣が無く、靴を脱ぐのも、水着になるのも靴下も脱ぎたくないという子があります。それを私たちの物差しで見ないで欲しいです。自分の

国、前の学校ではどうしてた？どうして嫌なの？と聞き取って初めから日本ではこうだ！と言わないで欲しいです。そういう配慮が学校や公共の場であると良いと思います。

**末永** 中学生の保護者から、外国人が公立高校を受験できると思っていなかったという話を聞き、それ以来、中学校に入ったなるべく早い段階で、日本の高校入試のシステムについて伝えるようにしています。

**田所** 保護者は高校受験についての情報が得られず、簡単に考えてきた子どもたちの居場所・受け入れ場所が無いという課題もあります。「外国人の子ども・サポートの会」での受験のサポートでは、数学・英語・作文・面接に力を入れています。まずは教科書が読めることが大事で、モデルを多く見せることも重要

です。日本の子どもの10倍のモデルが必要だと思います。

大きくなった子どもたちが来日したときのことを振り返ると、小学校で来た子どもたちは大変だった記憶がないと言っています。子どもは何でも吸収して自分のものになります。逆に、大きくなってから来日した子どもたちは、本当に大変だったと言います。受験と日本語の勉強が重なっていったからだということがあります。子どもたちは、命力は本当にすごいと思います。

**田村** 子どもたちには、あるときから上手くいくことがあると感じています。先生との出会いや、気に入った勉強との出会い、自分が得意なことを発表する機会だったりします。何かのきっかけで、すこくしゃべるようになったり、教室で冗談を言うようになったりします。1回のチャンスを押むとすこく変わりますね。特に少人数になったとき活躍の場が増えると思うので、そういう授業の運びをする工夫とか、その子が何か発信できるような雰囲気づくりや声かけが、教員

の重要な役割だと思っています。田所 私たちの会の活動は、同じまちに住んでいる住民として出来ることから始まっています。保護者が学校からのお便りが読めない、宿題が手伝えない、そういうことが毎日たくさんあります。日々の勉強や持ち物の準備、何気ないことが子どもたちには本当に大事です。近所の方が何か手伝えることがないか声をかけてくれたら、とても助かると思います。

**末永** 大人は子どもよりも壁があるように思います。壁を乗り越えるきっかけが必要です。例えば、保護者の会があると学校に来やすいですし、保護者同士の関係性が広がっていきま

す。八幡小学校で「ちょこっとティータム」という外国につながる子どもたちの保護者と学校をつなぐ会を10年以上続けています。小・中学校の校長先生や日本語の先生も同席するので、先生方と率直な話ができますし、

同じ境遇の親たちとディスカッションできます。困ったことがあれば、校長先生たちに相談できるようになります。保護者が安心感を持つことで子育ても安定します。

会の中では、「日本語を勉強した方がいいよ」というアドバイスが、外国出身の親から自然に出てくるのです。つながりは本当に大事だと思います。日本人は外国人を見ると、英語で話そうとしますが、日本語で十分です。日本語で「おはよう」と挨拶するだけでも、子どもはまわりに関わってくれる日本人の大人がいると安心します。

**田村** 挨拶ってすごいなと思います。ある先生は児童に会うと笑顔でハイタッチし、日本語でどんどん話しかけます。声をかけてもらおうと嬉しいようで、子どもから挨拶をするようになるのです。近所の人も、外国語が分からなくても、「こんにちは」と声をかけて欲しいですね。

帰国・外国人児童生徒等に関する教育情報 仙台市教育委員会のホームページに、日本語指導が必要な帰国・外国人児童生徒等の支援についての情報が掲載されました。



すえなが 末永 めぐみ 氏

八幡小学校地域ボランティア「ちょこっとティータム」代表。キャリアコンサルタント。公立校スクールカウンセラー。



たどころ きいこ 田所 希衣子 氏

「外国人の子ども・サポートの会」代表。コロナ禍においても、会員と共に、オンラインでのサポート活動に取り組んでいる。



たむら ゆかこ 田村 由香子 氏

元小学校教諭。昨年度定年退職するまでの5年間、外国人児童が多く在籍する市立小学校の日本語学習室を担当した。

外国につながる児童生徒を受け入れることになった学校の先生方の一助となるよう作成した冊子です。子どもたちの指導・支援に関わる全ての方に活用いただけます。



### 外国につながる児童生徒の受入れと指導の手引

仙台市教育委員会 帰国・外国人児童生徒等に関する教育情報





仙台で活動する外国人コミュニティや  
多文化共生・国際交流団体を紹介します

みやぎ かきょう かじんじょせいれんぎかい  
宮城華僑華人女性聯議會



オンライン教室の様子。会員からの要望に  
応じ、模索しながら実施している。

宮城華僑華人女性聯議會は、県内外に在住する中国系女性約200名が参加し、イベントや講座の開催の他、普段はSNSで生活情報の共有をしながら会員同士の交流を続けています。

コロナウイルス感染予防のため昨年から中断していた講座等を、会員から開催している「子ども中国語教室」も、親子で参加できるオンライン教室として再スタートしました。

毎月第3日曜日の朝、中国ルーツの子どもたちがパソコン画面の前に集まり、毎回テーマを変えながら、動画や写真を使って楽しく勉強しています。「母語・継承語」教育を目的とし、子どもたちの語学力を育てる中国語講座の他、中国の伝統行事や音楽、料理等についても学んでいます。

代表の裴さんは、「今後も会員同士

### 子ども中国語教室

宮城華僑華人女性聯議会在主催する、中国にルーツを持つ子どもたちのためのオンライン中国語教室。毎月第3日曜日9:30～11:00に、3歳～10歳の子どもの対象に、無料で開催。講師が、中国語の発音や物語、音楽、伝統文化などを教えている。詳しくは団体HP、申し込みはinfo.mcw2016@gmail.comまで。

助け合いながら、1人1人が楽しく笑顔で過ごせるように、様々な活動を続けていきます」と話してくれました。団体の活動について、詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.facebook.com/Miyagi-ChineseWomenCommunityGroup/>

## 外国につながる子どもたち



多様な子どもたちが学ぶ学校の様子を現場の先生に伝えてもらいます

### 国見小学校 国際教室 (その1)

横山 広佳 教諭

仙台市立国見小学校勤務4年目、昨年からは国際教室担当。趣味はアイドルの応援、アイドルのダンス、Netflixを観ること。



仙台市立国見小学校には、1992年に開設された国際教室があります。本校には外国籍児童や外国にルーツを持つ児童が多く、日本での生活支援や日本語習得のため、専任教師二名が配置されています。

国際教室では、児童の実態に応じて取り出し指導や入り込み指導で学習支援をしています。日本にきたばかりの児童には、テキストを使いながら日常生活で使う言葉を中心に、実践的な指導をしています。「いい・だめ」ある・

ない」など簡単な日本語ですが、先生や友達とコミュニケーションがとれるようになる、良い表情を見せます。

本校の給食はハラル対応をしており、他の児童とほぼ同じメニューを食べています。また、個別に着替えるためのスペースや、ラマダン時期の給食時間の対応など、外国の文化や宗教に合わせた環境作りも行っています。

日本の生活に適應させつつ、母国の文化も尊重し、国際教室が日本での居場所の一つになればと、日々願っています。

### 仙台市教育委員会 「帰国・外国人児童生徒 等指導協力者派遣事業」

仙台市教育委員会が行っている事業で、学校生活や授業でのサポートをするボランティアを派遣します。派遣を希望する場合は、学校の先生に相談が必要です。



ハラル対応給食は、専用の容器を使って配膳されます。メニューは他の児童と同じものです。

## 仙台ではたらく



**ゲワリ ロサンさん**／ネパール出身。関東の大学を卒業後、東京で就職。昨年転職し、現在は外資系企業の仙台支社勤務。

2013年に来日し、昨年コロナ禍の中で今の会社に転職し仙台へ来ました。仙台は人が多すぎず、自然が多く、食べ物が美味しくて、とても住みやすい街ですね。今は通信販売の仕事をしています。皆さんが良い買い物ができるように頑張っています。

前の会社では、上下関係、名刺交換やおじぎなどの礼儀作法、言葉遣い、空気を読むことなど、表面には見えないルールがあり戸惑いましたが、日本の会社文化を知る良い機会になりました。今の職場は人間関係が良く、とても働きやすいです。いろいろな国出身の人と働くことで多様な考えを知ることができ勉強になります。

休日にか何か良いことがしたいと思ったので、SENTIAのコミュニティ通訳サポーターにも登録しました。外国人と日本人が交流できるイベントがもつとあるといいですね。いつか日本で起業したいと思っています。日本に住むことは良い事ばかりではありませ

せんが、良い事のほうが多いです。日本にハマっているの、これからも長く日本で働きたいです。



オンラインではなく、なるべく職場へ行くようにしています。新人なので、すぐ質問ができるのは助かります。

## 子育てせんだい



**グエン トウ ヒエンさん**／ベトナム出身。コスタリカ出身の夫、1歳の息子との3人暮らし。息子が泣いているのを聞きつけて、同じ寮に住んでいる中国出身の方が牛乳を持って駆けつけてくれたエピソードがある。

2016年にベトナムから留学生として来日しました。来日したその日、偶然にも今の夫も留学生としてコスタリカから来日しました。そうです。私たちはお互いにとって「外国」である日本で国際結婚し、子どもを授かり3人で暮らしています。

おなかの中に赤ちゃんがいるとわかったとき、夫はとても喜んでくれましたが、初めての出産、なにより外国である日本での出産・育児に、不安を感じていました。

日本語でのコミュニケーションはほとんど問題ありませんが、出産や育児のこととなると話は別。出産育児一時金や新生児訪問など、母国にはない制度や文化の違いから最初は戸惑いました。その度に一つ一つ意味を調べ、わかるようになりました。

夫婦共に大学院で勉強しながらの子育ては大変で、自分たちで子育てに関する情報を集める時間はありませんが、病院や仙台市から手続きについて案内されたたり健診の通知が届いたり、いつも次のステップについて情報が届くので安心していきます。



息子と一緒にきれいな花を見にお出かけ

## 日本語学校の窓から



**遠藤和彦**／米沢市生まれ。東北大学で日本語教育学を学ぶ。仙台国際日本語学校教務主任。趣味は小説を書くこと。好きなものは漫画、焼鳥、産直。

当校の春休み・秋休み・冬休みには、日本語支援を必要とする「外国につながる子どもたち」が集まってくる。

自己紹介のあと、まずはアイスブレイク。みんなでジャンケン。負けたら足元の新聞紙を半分に分ける。片足立ちになって、新聞紙の外に足がついたらおしまい。最後まで残った人が優勝だ。遊びやジャンケンは子どもにとって言葉と同じぐらい大切なのだ。

そして先生と一対一の授業が始まる。漢字の読み書き、掛け算・割り算、都道府県……。休み時間にはボール遊びで大はしゃぎ。頭と体を動かせば、ジュースやお菓子もどんどんなくなる。

次は図書室で読書タイム。高学年にもなると自分で読む本を見つけれられるが、低学年の子どもたちは「これ読んで！」と次々絵本を持ってくる。

そんなこんなであつという間に三日間が過ぎ、日本語教室はお開きとなる。自治体や地域ボランティアだけでなく、自分たちも力になりたいと始めて12回。次回が待ち遠しい。



2019年10月  
小・中学生のための日本語教室（第11回）

※2020年春から現在まで、コロナ禍のため日本語教室は実施を見合わせている。

# CIR通信 Vol.1

## 外国人住民向けお役立ち動画 「粗大ごみの捨て方」

仙台市国際交流員（CIR）がSenTIAで携わっている多文化共生事業について紹介します。

今回は  
ページから  
紹介します！

### CIR ページ

ニュージーランド出身。  
在仙4年目。日本滞在は6年目。  
お菓子作りとサイクリングが好き。



### CIR タイラー

アメリカ・フロリダ出身。  
来日3年。  
登山やトレッキング好き。



※国際交流員（CIR：Coordinator for International Relations）  
JETプログラム（政府の外国青年招致事業）で来日し、自治体の国際交流担当部局等で国際交流や多文化共生事業に携わっています。  
仙台市には現在、2名のCIRがいます。

国際交流員として仙台市に配属され、ちょうど4年目になります。仙台市役所と仙台観光国際協会（SenTIA）で交代勤務しています。SenTIAでは、日常生活に重要な情報の翻訳、行政機関での相談通訳、ラジオ番組の収録等、幅広い業務を行っています。しかし、昨年からのコロナの影響で、通常業務や市民との国際交流イベントが開催できなくなりました。そこで、CIR 2人で新しい形の業務に挑戦することにしました。

それが、今回作成した外国人住民に向けた英語のお役立ち動画です。外国人がどんなことで困っているかと考えたとき、仙台多文化共生センターに寄せられる相談の中でも、件数が多く、対応時間が多くかかるのが「粗大ごみの捨て方」でした。粗大ごみは、その種類や形状、大きさによって料金が変わります。日本語のあまりできない外国人にとっては、粗大ごみを捨てるのはかなりの難題です。しかし、事前に粗大ごみの捨て方や粗大ごみ受付センターにどのような情報を伝えればいいのか分かれば、かなりスムーズに粗大ごみを捨てることができます。そんな動画ができれば、外国人は粗大ごみを捨てる時の不安も解消され、仙台多文化共生センターでの相談もより効率的になると考えました。

これまで、動画を作成した経験もないため、台本、構成、編集等、様々な課題に直面しましたが、どうにか完成し、仙台市公式動画チャンネル「せんだいTube」にアップすることができました。英語のネイティブ以外の外国人にも分かりやすいよ

うに、易しい英語を使ったり、ゆっくり台詞を話したり工夫しました。これからも、お役立ち動画を積極的に活用し、外国人が暮らしやすいまち・仙台市のために貢献していきたいと思えます。



「粗大ごみの捨て方」動画は、  
仙台市公式動画チャンネル「せんだいTube」  
<https://www.youtube.com/watch?v=jWKQGHq5IRI>  
で見ることができます。



## SenTIA サポーター（国際化事業部 賛助会員）募集中！

言葉や文化の違いをこえて、誰もが生き生きと暮らせる「多文化共生の地域づくり」に向けて、皆様からの支援をお待ちしています。事業にご賛同いただける方は、どなたでもお申し込みいただけます！

### 会員の種類/会費（年度ごと）

学 生	1口 500円	個 人	1口 1,000円
市民団体	1口 2,000円	法 人	1口 5,000円

賛助会費は、SenTIA  
の外国人支援事業に使  
わせていただきます。

### 法人会員のご紹介

#### ●（一財）日本国際協力センター

留学生受入、国際交流、国際研修等の人的資源開発、日本に暮らす諸外国の方々を支援する多文化共生事業、日本語教育や翻訳等、多岐にわたりSDGs実現に向けた事業展開をしています。

#### ●ターンアラウンド

青葉区大手町にある現代美術ギャラリー「ターンアラウンド」と仙台フォーラス7階「even」を運営。アート作品の展示や販売、展覧会企画等を行っています。

申込方法等について、  
HPをご覧ください。  
市民団体・法人会員の  
サポーターも  
紹介しています。



<http://int.sentiia-sendai.jp/j/activity/supporter.html>

# 仙台多文化共生センター をご利用ください

TEL 022-224-1919



仙台多文化共生センターでは、仙台に暮らす外国人住民の相談に多言語で対応しています。地域や学校、公的機関等からの各種相談にも応じています。お気軽にご利用ください。



## 通訳サポート電話 TEL 022-224-1919

3者間通話ができる電話を使って外国人住民への生活情報の提供と、通訳によるコミュニケーションのお手伝いをします。区役所・市民センター・保育所・学校などで、外国人住民とのコミュニケーションでお困りの際にご利用ください。(商用利用はできません)

**対応言語** 英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、タガログ語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、イタリア語、フランス語、ドイツ語、マレー語、クメール語、ミャンマー語、モンゴル語、シンハラ語

## 外国語による相談対応

外国人住民の日常生活での困りごと、悩みごとに、外国語で対応します。スタッフが英語・中国語で対応します。その他の言語については「通訳サポート電話」で対応することがあります。中国語・韓国語・ベトナム語・ネパール語は、相談員がそれぞれ週に1回、仙台多文化共生センターで直接相談に応じます。

## 外国人のための専門相談会

在留資格、法律、仕事で困っていること、行政手続き、税金などについて、専門家に相談できます。事前申込が必要です。通訳も無料で申し込めます。くわしくはお問い合わせください。

**2021年10月—12月の予定** 時間はすべて1:00 p.m. - 4:00 p.m.

※ 開催日が変更になることがあるので、ウェブサイト(右側のQRコード)を確認してください



仙台出入国在留管理局	仙台弁護士会	宮城県行政書士会	宮城労働局	東北税理士会
10月22日(金)	10月8日(金)	10月2日(土)		
11月26日(金)	11月12日(金)	11月6日(土)	11月18日(木)	10月6日(水)
12月24日(金)	12月10日(金)	12月4日(土)		

次回予定はウェブサイトでご確認ください。

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地 仙台国際センター 会議棟1階  
毎日9:00 a.m. ~ 5:00 p.m. (月に1~2日程度の休館日を除く)

TEL: 022-265-2471

FAX: 022-265-2472

E-mail: tabunka@sentia-sendai.jp

仙台多文化共生センターは、仙台市の委託を受け、  
(公財) 仙台観光国際協会 (SenTIA) が運営しています。

